令和４年度教育課程進度計画表

関西医療学園専門学校
東洋医療鍼灸学科

分　野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	情報科学		
講義期間	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験			

講義内容・目標	エクセルの基本操作（表、グラフ、データベース）を理解し、資料作成ができることを目標とする。	
授業計画	1	パソコンの基礎項目（拡張子、フォント、ウィンドウズ）
	2	文書入力と文字変換、IME パットの機能
	3	エクセルの概要と基本操作（セル選択、連続データの作成）
	4	セルの書式設定（セルや文字列への書式設定）
	5	行・列の調整、シートの操作
	6	計算の基本と式の複写
	7	基本の関数と数式のセル参照
	8	日付と時刻の考え方
	9	各機能の確認と練習問題
	10	グラフ操作（作成と編集）
	11	シートのスクロール、枠の固定、データベースの操作
	12	印刷の各種設定
	13	各機能の確認と課題作成の練習問題
	14	利用頻度の高い関数
	15	まとめ

成績評価	学修成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	生命科学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	基礎医学を学ぶために必要な生物学を理解し医学系基礎科目の学習がスムーズに行えるようにする。
授業計画	1　科学の基礎、ヒトのからだを構成する物質 2　原核細胞と真核細胞の特徴 3　原核生物、真核生物、ウイルスの違い 4　細胞分裂（体細胞分裂、減数分裂） 5　細胞周期（細胞周期の調節、細胞周期の破綻） 6　細胞死（細胞の損傷、細胞の適応） 7　細胞死（アポトーシスとネクローシス、アポトーシスと疾患） 8　細胞内外の情報伝達（ホルモン、サイトカイン、神経） 9　分子生物学の基礎（DNA、遺伝子） 10　遺伝情報の流れ（遺伝子からタンパクへ） 11　PCR 法 12　遺伝子組み換え（技術の原理、医学への応用） 13　再生医療（輸血、臓器移植、（細胞レベルの再生医療、多能性幹細胞の可能性、ES 細胞、iPS 細胞） 14　生体防御 15　まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	中国語		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験			

講義内容・目標	正しく発音し、簡単な会話が聞き取れること。学んだ語彙や基本的な構文法を用いて、相手に簡潔にかつ正確に伝えることを目標とする。	
授業計画	1	中国語と日本語の相違点について
	2	第１課　単母音、二重母音、三重母音と声調
	3	第２課　鼻母音
	4	第３課　子音
	5	発音のまとめ
	6	第４課　“自我介绍” ／ 自己紹介する。
	7	判断動詞”是 shi”／･･･です。基本的な使い方
	8	人称代名詞･指示代名詞、〃是 shi”を扱い時の注意点！
	9	第５課 “我有学生证。”／ 学生証を持っています。
	10	所有する“有 you”／　所有する・持つ・そなえている
	11	“二 er”と“两 liang”の使え方
	12	第６課“厕所在哪？”／ トイレはどこですか。
	13	在 zai”／　（ある場所に）いる・ある。方位詞
	14	学校を案内する
	15	学期まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	保健体育		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験			

講義内容・目標	健康増進の運動を理論だけでなく実践できるようになる。	
授業計画	1	ガイダンス
	2	運動前のセルフチェック
	3	ストレッチング（セルフストレッチング）
	4	〃　（ダイナミックストレッチング）
	5	バランスエクササイズ
	6	〃
	7	有酸素運動（ウォーキング）
	8	〃　（ジョギング）
	9	〃　（SAQ）
	10	レジスタンス運動（体幹のトレーニング）
	11	〃　（下半身のトレーニング）
	12	〃　（上半身のトレーニング）
	13	〃　（コーディネーショントレーニング）
	14	〃　（サーキットトレーニング）
	15	まとめ

成績評価	学修成果評価
評価基準	６０点以上履修認定（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	下記講義計画の内容について正確な理解を目指します。また講義後も自立学習が出来ることを目指します。	
授業計画		人体の構造と機能（Ⅰ）
	1	受講ガイダンス・総論
	2	消化器系
	3	〃
	4	〃
	5	〃
	6	〃
	7	〃
	8	呼吸器系
	9	〃
	10	泌尿器系
	11	〃
	12	生殖器系
	13	〃
	14	内分泌系
	15	〃
	16	〃
	17	〃
	18	〃
	19	〃
	20	〃
	21	神経系
	22	〃
	23	〃
	24	〃
	25	〃
	26	〃
	27	〃
	28	感覚器系
	29	〃
	30	〃

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験			

講義内容・目標	人体を構成する細胞や組織とともに、正常な人体の骨、関節、筋についての知識を身につける。
授業計画	人体の構造と機能（Ⅱ） 1　ガイダンス（解剖学とは、学び方） 2　人体の構成（細胞、組織） 3　〃　（組織、人体の区分と切断面） 4　骨　学（骨組織　骨の発生　骨の形状　全身の骨格） 5　〃　（椎骨） 6　〃　（椎骨　胸郭） 7　骨　学（上肢の骨格） 8　〃　（上肢の骨格） 9　〃　（下肢の骨格） 10　〃　（下肢の骨格） 11　〃　（頭蓋） 12　〃　（頭蓋） 13　関　節 14　〃 15　〃 16　〃 17　筋　学（総論） 18　〃　（頭頚部の筋） 19　〃　（頭頚部の筋）　〃 20　〃　（胸部の筋） 21　〃　（腹部の筋） 22　〃　（背部の筋） 23　〃　（上肢の筋） 24　〃　（上肢の筋） 25　〃　（上肢の筋） 26　〃　（上肢の筋） 27　〃　（下肢の筋） 28　〃　（下肢の筋） 29　〃　（下肢の筋） 30　〃　（下肢の筋）

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	下記授業内容を理解し、身体の正常な働きについて知識を身につける。	
授業計画		人体の構造と機能（Ⅲ）
	1	第１章　生理学の基礎
	2	〃　　〃
	3	第２章　循　環
	4	〃　　〃
	5	〃　　〃
	6	〃　　〃
	7	〃　　〃
	8	〃　　〃
	9	〃　　〃
	10	〃　　〃
	11	第３章　呼　吸
	12	〃　　〃
	13	〃　　〃
	14	第４章　消化と吸収
	15	〃　　〃
	16	〃　　〃
	17	〃　　〃
	18	第５章　代　謝
	19	〃　　〃
	20	〃　　〃
	21	第６章　体　温
	22	〃　　〃
	23	第７章　排　泄
	24	〃　　〃
	25	〃　　〃
	26	第８章　内分泌
	27	〃　　〃
	28	〃　　〃
	29	第９章　生殖・成長と老化
	30	〃　　〃

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	神経、筋、運動、感覚、生体の防御機構、身体活動の協調を学び理解する。国家試験を想定した問題を解かせ、四者択一問題に慣れさせる。	
授業計画		人体の構造と機能（Ⅳ）
	1	ガイダンス(全体の概要)
	2	ニューロンの基本構造とその働き
	3	支持細胞の働き、軸索輸送、変性と再生、神経線維の興奮伝導
	4	静止電位と活動電位
	5	興奮伝導の仕組み
	6	神経線維の種類、シナプス伝達（興奮性・抑制性）
	7	神経伝達物質と受容体
	8	中枢神経系の分類と機能、反射
	9	脊髄、脊髄内の伝導路
	10	脳幹、小脳、視床、視床下部の働き
	11	大脳の働き（機能局在・高次脳機能）
	12	脳波、脳脊髄液
	13	末梢神経系（脳神経・脊髄神経）
	14	自律神経系（交感神経・副交感神経）
	15	〃　（神経伝達物質と受容体）
	16	自律神経に関与する反射
	17	骨格筋の構造と働き
	18	筋収縮の仕組み、筋エネルギー供給の仕組み
	19	心筋と平滑筋の働き
	20	骨格筋の神経支配
	21	運動の調節（脊髄）
	22	〃　（小脳・大脳基底核・大脳皮質）
	23	錐体路系と錐体外路系、発声と言語
	24	感覚の分類と一般的性質、体性感覚（皮膚感覚・深部感覚・伝導路）、内臓感覚
	25	痛　覚（分類・内因性発痛物質・痛みの抑制系）
	26	味覚と嗅覚（性質・受容器と伝導路）
	27	聴覚と平衡感覚（性質・受容器と伝導路）
	28	視　覚（性質・受容器と伝導路）
	29	生体の防御機構
	30	身体活動の協調

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	保健医療福祉とはり、きゅうの概念		
講義名	医療概論		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	４０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標		「医療」の全体像を歴史・論理・倫理の観点から考察することが出来る。
授業計画	1	ガイダンス(全体の概要)
	2	
	3	医学史序説
	4	
	5	医学史の意義と特質
	6	
	7	西洋医学と医療の歴史(古代～中世)
	8	
	9	〃（ルネサンス～18 世紀）
	10	〃　　(19 世紀～現代)
	11	
	12	東洋医学と医療の歴史　(古代インド医学)
	13	
	14	〃　　(中国医学)
	15	
	16	〃　　(日本医学)
	17	
	18	近代医学の課題
	19	
	20	東洋医学の課題
		現代の医療制度(医療従事者と医療施設)
		現代の医療と医療経済
		医療保険の仕組み
		公的医療負担
		介護サービス行政
		倫理を学ぶ意義
		医療倫理
		バイオエシックス
		施術者の倫理

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	基礎はり学、基礎きゅう学		
講義名	はり・きゅう理論		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	鍼灸施術の基礎となる科学的治効理論を明らかにして、鍼灸施術のもつ意義の重要性を理解し、鍼灸施術を効果的に行うことができる能力を養う。また科学的思考に立って鍼灸施術をとらえる態度を養い、さらに研究の必要性を実感させることを目指す。	
授業計画	1	第１章　概　論　1. 鍼灸施術の意義
	2	〃　　2．鍼灸施術の特徴
	3	第２章　鍼の基礎知識　１．用具
	4	〃　　２．古代九鍼
	5	第３章　刺鍼の方式と術式　１．刺鍼の方式
	6	〃　　２．刺鍼の術式
	7	第４章　特殊鍼法　小児鍼
	8	〃　　皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼、耳鍼
	9	〃　　低周波鍼通電療法、頭鍼療法
	10	第５章 灸の基礎知識　１．灸の材料～２．線香
	11	第６章　灸術の種類　１．有痕灸
	12	〃　〃　２．無痕灸
	13	第７章　鍼灸の臨床応用　１．刺激量
	14	〃　〃　２．感受性
	15	〃　〃　３．鍼灸療法の適応症
	16	〃　〃　４．鍼灸療法の禁忌
	17	第８章　リスク管理　１．リスク管理の基本
	18	〃　〃　２．過誤と副作用
	19	〃　〃　３．鍼療法の過誤と副作用
	20	〃　〃　４．灸療法の過誤と副作用
	21	〃　〃　５．感染症対策
	22	第９章　鍼灸治効の基礎　１．痛み感覚の受容と伝導
	23	〃　〃　２．温度感覚の受容と伝達
	24	〃　〃　３．触圧感覚の受容と伝達　４．筋の伸張刺激
	25	〃　〃　５．鍼灸刺激と反射
	26	〃　〃　６．鍼鎮痛
	27	〃　〃　７．刺激と反応
	28	第10章　一般治効理論　自律神経、生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響
	29	第11章　関連学説　１．サイバネティックス　２．ホメオスターシス　３．ストレス学説
	30	〃　〃　４．レイリー現象　５．圧発汗反射

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	基礎はり学，基礎きゅう学		
講義名	東洋医学概論		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	４０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	陰陽論、五行論の概要、詳細を覚える。	
授業計画		東洋医学概論（Ⅰ）
	1	東洋医学の概要
	2	陰陽学説の基本内容
	3	東洋医学における陰陽学説の運用
	4	五行学説の基本内容
	5	東洋医学における五行学説の運用
	6	生理物質(精・気・血・津液)
	7	神
	8	人体における陰陽
	9	蔵象学説
	10	五臓とその機能に関した領域
	11	〃　〃
	12	〃　〃
	13	五臓の相互関係
	14	六腑の協調関係
	15	全身の気機
	16	病　因
	17	病　機
	18	復　習
	19	〃
	20	〃

成績評価	学修成果評価（満点１００）
評価基準	６０点以上履修認定

分　野	専門分野		
教育内容	基礎はり学，基礎きゅう学		
講義名	取穴基礎		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	４０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	体幹、上肢、下肢、頭頸部の構造では、各箇所で構成される三角や間隙の構造とその部分を走行する神経や脈管について理解する。神経や脈管はその起点からの流れ、分布する筋について理解する。体表から触知出来る骨や筋、三角については触察が行えることを目標とする。	
授業計画	1	体幹の構造　胸部、腹部、会陰、背部の主な構造と表皮からの触診ポイント
	2	体幹の動脈　胸壁、腹壁、背部、会陰の動脈
	3	体幹の静脈　胸壁、腹壁、背部、会陰の静脈
	4	体幹のリンパ　リンパの特徴と胸壁、腹壁、背部、会陰のリンパ
	5	体幹の神経　脊髄の構造と神経叢について
	6	〃　胸壁、腹壁、背部、会陰に分布する神経
	7	上肢の構造　肋鎖間隙、腋窩、上腕筋間中隔、肘窩、手根管について
	8	上肢の脈管　動脈　鎖骨下 A～腋窩 A～上腕 A～橈骨・尺骨 A～浅掌・深掌 A の流れ
	9	〃　静脈とリンパ
	10	上肢の神経　腕神経叢の構成
	11	〃　腕神経叢に由来する神経の走行と分布
	12	下肢の構造　筋裂孔、血管裂孔、大腿三角、殿部の体表、大坐骨孔、小坐骨孔、膝窩、足部
	13	下肢の脈管　動脈と静脈の流れ
	14	下肢の神経　腰神経叢の構成
	15	〃　腰神経叢に由来する神経の走行と分布
	16	〃　仙骨神経叢の構成
	17	〃　仙骨神経叢に由来する神経の走行と分布
	18	頭頸部の三角
	19	頭頸部の脈管　内頚動脈、外頚動脈、鎖骨下動脈の枝
	20	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	基礎はり学，基礎きゅう学		
講義名	基礎経絡経穴学		
授業方法	講　義		
単位数	４単位		
時間数	８０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	経絡経穴の概要を理解し、正穴 361 穴の名称を順番に書けるようになる。			
授業計画		基礎経絡経穴学（Ⅰ）		基礎経絡経穴学（Ⅱ）
	1	経絡経穴学の概要	1	経絡経穴学の概要
	2	手の太陰肺経の経穴名	2	下肢解剖、足の三陽経の五兪穴、五要穴の取穴
	3	手の陽明大腸経の経穴名	3	〃
	4	足の陽明胃経の経穴名	4	〃
	5	〃　〃	5	下肢解剖、足の三陰経の五兪穴、五要穴の取穴
	6	足の太陰脾経の経穴名	6	〃
	7	手の少陰心経の経穴名	7	〃
	8	手の太陽小腸経の経穴名	8	上肢解剖、手の三陰経の五兪穴、五要穴の取穴
	9	足の太陽膀胱経の経穴名	9	〃
	10	〃　〃	10	〃
	11	〃　〃	11	上肢解剖、手の三陽経の五兪穴、五要穴の取穴
	12	足の少陰腎経の経穴名	12	〃
	13	手の厥陰心包経の経穴名	13	背部解剖、背部兪穴の取穴
	14	手の少陽三焦経の経穴名	14	〃
	15	足の少陽胆経の経穴名	15	〃
	16	〃　〃	16	胸腹部解剖、募穴の取穴
	17	足の厥陰肝経の経穴名	17	〃
	18	復　習	18	復　習
	19	〃	19	〃
	20	〃	20	〃

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	実　習		
講義名	はりきゅう実技		
授業方法	実　技		
単位数	７単位		
時間数	２１０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	鍼・灸実技に必要な基礎技術を身に付けながら、臨床への興味を高める。	
授業計画	はり実技（Ⅰ） 1）～8）鍼の基本技術について （1）刺鍼の手順　（2）押手・刺手 （3）挿管　（4）弾入・切皮　（5）刺入 9)～ 10) （1）消毒法の実際 （2）施術用具の取り扱いと管理 （3）施術における諸注意 （4）施術過誤″ 11)～26)経穴の説明と直刺の練習 27)～34）頚肩背部への刺鍼 35)～36)腰部への刺鍼 37)臀部への刺鍼 38)腹部への刺鍼 39)～40)膝への刺鍼 41)～43)上肢への刺鍼 44)～45)頭部への刺鍼 46)～47)鎖骨部・前頚部・顔面への刺鍼 48)～49)脈診からの配穴と刺鍼 50)～53)奇経治療の経穴への刺鍼	きゅう（Ⅰ） 1）　ガイダンス（授業上の諸注意） 2)～6)灸の基礎知識 ①灸用具の点検と取扱い　②艾・線香の材料と種類 ③灸術の種類 ④施灸上の諸注意（過誤の防止と対策：感染、火傷、灸痕化膿、灸あたりなど） 7)～8)艾炷の作成練習 ①指の動かし方　②米粒大、半米粒大の艾炷の作成 （※主に米粒大の作成練習を行う） 9)～12)艾炷の着床練習（＊主に施灸板を用いて） ①灸リング・灸点器の使い方　②艾炷の千切り方 ③艾炷の持ち方・離し方　④身体への着床 13)～14)着火の練習 ①線香の持ち方　②着火方法　③線香の回転 15)～17)透熱灸の練習 ①板上での練習　②紙上での練習 18)～20)八分灸の練習 21)～24)人体への八分灸の施灸 25)～36)正経 12 経の要穴への施灸練習 37)～41）様々な部位への施灸 42)～45)疾患に対する施灸 46)～52)その他の灸

成績評価	学習成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	鍼灸総合療法（Ⅰ）		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	１　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	鍼灸療法の基礎となる知識や技能について総合的に学習する。	
授業計画		鍼灸総合療法（Ⅰ）
		（Ⅰ－１）
	1	下　肢　　下肢の構造と役割　　扁平足と外反母指の鍼灸治療
	2	下　肢　　変形性膝関節症の鍼灸治療　　変形性股関節症の鍼灸治療
	3	体　幹　　脊柱の構造と役割　　非特異的腰痛の鍼灸治療
	4	体　幹　　肩こりの鍼灸治療　　寝違いの鍼灸治療
	5	上　肢　　上肢の構造と役割　　肩関節インピジメント症候群の鍼灸治療
	6	上　肢　　野球肘の鍼灸治療　　テニス肘の鍼灸治療
	7	その他　　腱鞘炎の鍼灸治療　　頭痛の鍼灸治療　　リウマチの鍼灸治療
		（Ⅰ－２）
	8	刺鍼中の手技１７法
	9	難経 69 難グループワーク（脈診など）
	10	耳介療法
	11	耳介療法
	12	刺絡鍼法
	13	刺絡鍼法
	14	症例に対するグループワーク
	15	症例に対するグループワーク
		（Ⅰ－３）
	16	施術に当たっての準備
	17	身の整え方・姿勢
	18	手の作り方・用い方・触診
	19	望診・目付
	20	寒熱の見方
	21	虚実の見方
	22	補気・理気・行気
		（Ⅰ－４）
	23	打診　胆経振骨法
	24	横刺・長鍼
	25	散鍼
	26	全身調整
	27	頭部・頸部の刺鍼
	28	肩・背部の刺鍼
	29	腰部・殿部の刺鍼
	30	下腿部の刺鍼

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	健康科学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験			

講義内容・目標	生体物質の重要性を学ぶことで、「健康」について様々な角度から考察することができる。	
授業計画	1	ガイダンス（全体の概要）
	2	人体の構成
	3	タンパク質の構造
	4	タンパク質の機能
	5	糖質の構造
	6	糖質の機能
	7	脂質の構造
	8	脂質の機能
	9	核酸の構造
	10	核酸の機能
	11	酵素の特徴と機能
	12	ビタミンの機能
	13	水、無機質の機能
	14	栄養素の消化吸収
	15	まとめ（生体物質と「健康」）

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	心理学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験			

講義内容・目標	心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。日常生活と心の健康との関係について理解する。	
授業計画	1	オリエンテーション、心と脳
	2	心理学とは－－心の科学の生い立ちと歩み
	3	知覚－－形・空間・運動の知覚
	4	知覚－－知覚の情報処理
	5	記憶－－記憶の仕組み
	6	記憶－－知識としての記憶
	7	思考－－考えることの仕組み
	8	人間の情報処理過程についてのまとめ
	9	社会的認知－－他者を知ることのしくみ
	10	コミュニケーションに関わる心理学
	11	感情・動機づけ－－喜怒哀楽と意欲をめぐって
	12	性格－－心の個人差とその測定
	13	心理療法とは
	14	発達－－心の働きの成長と変化、生涯発達心理学とは
	15	授業全体のまとめ（筆記テストについての説明含む）

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進		
講義名	病理学概論		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	病理学的知識を通して人体の正常構造や機能を系統的に学んだ基礎医学系科目と臨床医学的科目とリンクできる知識を身につける。	
授業計画	1	ガイダンス（全体の概要）
	2	病理学とはどのような学問か
	3	疾病についての基本的な考え方
	4	病因論（素因、内分泌障害、物理的要因）
	5	〃　（化学的外因）
	6	〃　（生物的外因）
	7	循環障害（充血、うっ血）
	8	〃　（貧血、虚血）
	9	〃　（出血、血栓）
	10	〃　（塞栓、梗塞）
	11	〃　（浮腫、ショック）
	12	退行性病変（萎縮、変性）
	13	〃　（壊死）
	14	〃　（肥大、増殖）
	15	進行性病変（再生、化生）
	16	〃　（移植、創傷治癒、異物の処理）
	17	炎　症（分類、経過）
	18	〃　（増殖性、特異性）
	19	腫　瘍（腫瘍とは）
	20	〃　（良性、悪性）
	21	免疫異常（細胞性免疫、液性免疫）
	22	アレルギー（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ）
	23	免疫不全（先天性、後天性）
	24	自己免疫異常
	25	〃　（全身性エリテマトーデス）
	26	〃　（慢性関節リウマチ、橋本病）
	27	先天異常（総論）
	28	〃　（遺伝子疾患、単純遺伝性の異常）
	29	〃　（遺伝子疾患、多因子性の異常）
	30	〃　（染色体異常）

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進		
講義名	臨床医学総論		
授業方法	講　義		
単位数	４単位		
時間数	８０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	適切な診察法を理解し、主たる症候に精通することを目標とする。	
授業計画	1	診察の意義、診察の心得、関連用語、医療面接
	2	視診、触診、打診、聴診、生命徴候
	3	顔貌・顔色、精神状態、言語
	4	身体計測、姿勢と体位、歩行
	5	皮膚、粘膜、皮下組織、爪の状態
	6	リンパ節、頭部、顔面の診察
	7	眼の診察（視野、眼瞼下垂、眼球突出、瞳孔異常、複視、ホルネル徴候、眼振、眼底所見）
	8	鼻の診察、耳の診察、口腔の診察
	9	頸部の診察、胸部の診察、乳房の診察、肺・胸膜の診察
	10	心臓の診察、腹部の診察（皮膚線条、腹壁静脈の怒張、腹部の膨隆と陥凹）、腹膜刺激症状
	11	腹部の診察（腹水、グル音、鼓腸、鼓音）、腹部内臓の触診、直腸、肛門、外性器の診察
	12	脊柱の診察、関連痛
	13	上肢の変形
	14	下肢の変形
	15	感覚神経の経路、種類、障害
	16	反射の種類、反射検査、錐体路障害
	17	脳神経系の障害、髄膜刺激症状、高次脳機能検査
	18	運動麻痺、錐体路・錐体外路・下位運動ニューロン障害
	19	筋肉の異常、不随運動
	20	協調運動、起立検査、歩行検査
	21	関節可動域検査、徒手筋力検査、日常生活動作
	22	徒手による整形外科的検査法　…　頸部、胸部、肩関節
	23	〃　〃　…　頸部、胸部、肩関節
	24	〃　〃　…　腰、下肢、股関節、膝関節
	25	救急時、小児、女性、高齢者の診察
	26	臨床検査法　…　尿検査、便検査、血液検査
	27	〃　…　血液生化学検査
	28	生理学的検査、画像検査
	29	頭痛、顔面痛、歯痛、眼精疲労、鼻閉・鼻汁
	30	めまい、耳鳴り、難聴、咳・痰、息切れ（呼吸困難）
	31	動悸、胸痛、腹痛、便秘・下痢
	32	月経異常、不正性器出血、排尿障害、乏尿・無尿、多尿
	33	浮腫、肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、関節痛
	34	運動麻痺、食欲不振、肥満、やせ（るいそう）
	35	発熱、のぼせ・冷え、不眠、疲労・倦怠
	36	発疹、ショック、出血傾向、易感染性、貧血
	37	眼振、口渇、嗄声、嚥下困難、血痰・喀血
	38	胸水、悪心・嘔吐、吐血・下血、意識障害
	39	治療学
	40	臨床心理

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念		
講義名	衛生学・公衆衛生学		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	直面する様々な課題を通して、社会における公衆衛生の役割、地域で進めるべき健康づくりの方法、人々の健康を支える基盤づくりを理解できる。	
授業計画	1	ガイダンス(全体の概要)
	2	衛生学、公衆衛生学の歴史
	3	衛生学、公衆衛生学の活動と意義
	4	健康の概要
	5	健康の管理
	6	医療制度と医療保障
	7	食品の意義と食生活
	8	食品と疾病
	9	食中毒
	10	運動と健康
	11	環境の捉え方
	12	日常生活環境
	13	公害
	14	地球規模の環境問題
	15	労働衛生行政
	16	業務上疾病とその対策
	17	精神保健の意義
	18	精神障害の現状と分類
	19	母子保健の意義
	20	少子化問題とその対策
	21	成人・高齢者保健の意義
	22	高齢者の保健福祉対策
	23	感染症の意義と種類
	24	発生要因
	25	予防の原則
	26	免疫と予防接種
	27	消毒の種類
	28	消毒の実際
	29	疫学の意義と実際
	30	保健統計

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念		
講義名	関係法規		
授業方法	講　義		
単位数	１単位		
時間数	２０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として業務に従事するうえで必要な事項と、医事、福祉関係の法規を理解する。	
授業計画	1	法とは何か
	2	免許と試験
	3	業務の独占と業務の範囲
	4	施術所について
	5	罰則
	6	医事法規と医療制度
	7	薬事法規
	8	衛生関係法規
	9	社会福祉関係法規
	10	社会保険関係法規

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	基礎はり学、基礎きゅう学		
講義名	東洋医学概論		
授業方法	講　義		
単位数	４単位		
時間数	８０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	東洋医学的な病態把握ができるための基礎知識を習得することを目標とする。	
授業計画		東洋医学概論（Ⅱ）
	1	東洋医学の生理と病理
	2	精の生理
	3	精の病理
	4	気の生理
	5	気の病理
	6	血の生理
	7	血の病理
	8	津液の生理
	9	津液の病理
	10	精気血津液の相互関係
	11	神の生理
	12	神の病理
	13	陰陽の生理
	14	陰陽の病理
	15	蔵象学説
	16	五　臓
	17	六　腑
	18	肝系統
	19	心系統
	20	脾系統
	21	肺系統
	22	腎系統
	23	三　焦
	24	五臓の相互関係
	25	経絡の生理
	26	経絡の病理
	27	病因と病機
	28	望　診
	29	舌　診
	30	聞　診
	31	問診の進め方
	32	寒熱、飲食の問診
	33	睡眠、二便の問診
	34	身体各部の問診
	35	汗、疼痛の問診
	36	女性、既往歴、家族歴の問診
	37	腹　診
	38	切　経
	39	脈状診
	40	六部定位脈診

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床経絡経穴学		
授業方法	講　義		
単位数	４単位		
時間数	８０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	上肢・下肢・体幹・頭部・顔面部に位置する経穴の部位を覚えて、取穴ができるようになる。経穴の効能を覚え、症状の配穴を自分で考えることができる。	
授業計画		臨床経絡経穴学（Ⅰ）
	1	前腕の要穴
	2	〃
	3	上腕の経穴
	4	〃
	5	下腿の要穴
	6	〃
	7	大腿の経穴
	8	〃
	9	手部の経穴
	10	足部の経穴
	11	腹部の経穴
	12	胸部の経穴
	13	肩上部・背部の経穴
	14	腰部・臀部の経穴
	15	前頚部・側頚部の経穴
	16	頭部の経穴
	17	〃
	18	募穴・背部兪穴
	19	四総穴・下合穴・八会穴
	20	前期のまとめ
	21	太極療法
	22	〃
	23	要穴の運用方法
	24	〃
	25	動脈拍動部
	26	〃
	27	神経刺激点
	28	〃
	29	同音・同名異穴
	30	是動・所生
	31	〃
	32	経間関係と臨床応用
	33	〃
	34	十二経筋
	35	奇経八脈
	36	〃
	37	奇　穴
	38	〃
	39	〃
	40	後期のまとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床経絡経穴学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	４０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	病態に対して治療穴が選択できる。また、補瀉を選択できることを目標とする。	
授業計画		臨床経絡経穴学（Ⅱ）
	1	督　脈
	2	督　脈　　任　脈
	3	任　脈
	4	肺　経
	5	大腸経
	6	大腸経　　胃　経
	7	胃　経
	8	脾　経
	9	〃
	10	心　経
	11	小腸経
	12	膀胱経
	13	〃
	14	腎　経
	15	〃
	16	心包経
	17	三焦経
	18	胆　経
	19	胆　経　　肝　経
	20	肝　経　　奇経八脈

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講　義		
単位数	４単位		
時間数	８０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	疾病について理解し、それぞれの疾病について鍼灸治療が適切に行える。	
授業計画		臨床東洋医学（Ⅰ）
	1	講義概要　西洋医学概論
	2	〃　東洋医学概論
	3	内科系疾患　口内炎・歯痛
	4	〃　食道疾患
	5	〃　胃疾患
	6	〃　胃潰瘍
	7	〃　胃神経症・胃下垂
	8	〃　胃炎・潰瘍性大腸炎
	9	〃　下痢・便秘
	10	〃　痔・虫垂炎
	11	〃　肝疾患
	12	〃　胆嚢・膵臓疾患
	13	〃　腎疾患
	14	〃　膀胱疾患
	15	〃　尿路疾患
	16	産婦人科疾患
	17	〃
	18	生殖器疾患
	19	〃
	20	眼科疾患
	21	〃
	22	耳鼻科疾患
	23	〃
	24	皮膚科疾患
	25	〃
	26	精神科疾患
	27	〃
	28	小児科疾患
	29	〃
	30	医療過誤
	31	〃
	32	名家灸選
	33	〃
	34	米国保健衛生局（NIH）共同声明
	35	〃
	36	〃
	37	整形外科疾患　肩部
	38	〃
	39	〃
	40	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	社会はり学、社会きゅう学		
講義名	社会はき学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	４０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	正確にスポーツ障害の評価を行えること、予防法、応急処置の方法などを一般のスポーツ選手に説明できることを目標とする。そして最終の目標は、その障害に対し鍼灸治療でいかに改善させるかを到達目標とする。	
授業計画		社会はき学（Ⅰ）
	1	ガイダンス、鍼灸治療の基本
	2	シンスプリント
	3	アキレス腱炎、シーバー病
	4	下腿部の筋に対する伸展法、足部牽引性運動法
	5	膝蓋靭帯炎、オスグッドシュラッター病
	6	鵞足炎、腸脛靭帯炎
	7	ハムストリングス肉離れ
	8	梨状筋症候群、股関節障害
	9	大腿部の筋に対する伸展法、膝部・股関節牽引性運動法
	10	筋筋膜性腰痛
	11	腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症
	12	胸郭出口症候群
	13	体幹・頚部の伸展法
	14	肩関節インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱炎
	15	上腕部の筋に対する伸展法、肩関節牽引性運動法
	16	上腕骨内・外側上顆炎
	17	ドケルバン病、TFCC 損傷
	18	肘・手関節の牽引運動法
	19	前腕部の筋に対する伸展法
	20	スポーツ障害のまとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	実　習		
講義名	はりきゅう実技		
授業方法	実　技		
単位数	３単位		
時間数	９０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	臨床の場で患者の体質・疾患に適した刺鍼手技、灸の手技が行えるようにする。
授業計画	はり実技（Ⅱ） 1) 片手挿管１分間タイムトライアル （目標１５回以上　毎回実施） 身体各部の刺鍼 前腕背側部の取穴と刺鍼 2)～6) 前腕背側部　下腿外側及び前面部 7)～10) 前腕外側部・手部及び下腿内側部 11)～15) 前腕掌側部と尺側部および 下腿後側部・足部 16)～18) 肩周囲部　膝周囲部 大腿外側部・内側部 19)～20) 後頚部・顔面部 21)～23) 肩上部・上背部 きゅう実技（Ⅱ） 1)～2) きゅう治療概論 3)～4) 頭　部 5)～6) 肩背部 7)～8) 腰背部 9)～11) 上肢① 12)～14) 上肢② 15)～17) 下肢① 18)～20) 下肢② 21)～23) 全体まとめ

成績評価	学習成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	実習		
講義名	はりきゅう実技		
授業方法	実　技		
単位数	３単位		
時間数	９０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	臨床の第一歩に対応できることを目標に、刺鍼技術全般のグレードアップを目指す。			
		はり実技（Ⅲ）		きゅう実技（Ⅲ）
授業計画	1	上背部（兪穴）	1	きゅう実技の注意事項
	2	〃	2	内科系疾患
	3	〃	3	〃
	4	〃	4	〃
	5	前頸部・頭部	5	〃
	6	〃	6	〃
	7	前胸部・腹部（募穴）	7	精神科疾患
	8	〃	8	〃
	9	〃	9	〃
	10	〃	10	〃
	11	〃	11	〃
	12	〃	12	小児科疾患
	13	〃	13	〃
	14	〃	14	〃
	15	経外奇穴の取穴と刺鍼 1.前腕部　2.手部　3.下腿部・足部 4.腿部　5. 肩背部　6.頸部 7.顔面部　8.上背部・腰部・仙骨部	15	整形外科疾患
	16	スキン鍼法	16	〃
	17	打管鍼法	17	〃
	18	頭髪際鍼法	18	〃
	19	肢体運動刺鍼法	19	〃
	20	良導絡療法	20	眼・耳・鼻・皮膚科疾患
	21	〃	21	〃
	22	〃	22	〃
			23	まとめ

成績評価	進級実技試験（臨床実習前試験）
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	実　習		
講義名	臨床基礎実習		
授業方法	実　習		
単位数	１単位		
時間数	３０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	3 年次の臨床実習に備え医療面接を中心に、施術者として求められている態度など、患者との円滑なコミュニケーションを図れるようにする。	
授業計画	1	医療面接とは
	2	医療面接の目的と構造
	3	医療面接とコミュニケーション
	4	質問法（開かれた質問・閉ざされた質問・傾聴）
	5	患者への説明と教育
	6	グループワーク
	7	〃
	8	ガイダンス
	9	業務開始前の準備（掃除、カルテの準備、鍼灸道具のセット・補充）
	10	患者の誘導と問診（医療面接）
	11	鍼灸道具の片付け（オートクレーブの操作など）
	12	カルテの書き方
	13	〃
	14	カンファレンス
	15	〃

成績評価	学修成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	特殊療法		
授業方法	講　義		
単位数	１単位		
時間数	２０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	経絡治療の真髄は、病の本態（証）を把握し自然治癒力を高めることよって必然的に治癒という結果をもたらすことにある。脈診・証・補瀉を中心とするこの治療法を習得実践し臨床に生かせる治療家を目標とする。	
授業計画		特殊療法（Ⅰ）
	1	経絡治療と脈診・証・補瀉の概要
	2	〃
	3	五臓の生理・病理と臨床応用
	4	〃
	5	五行学説と治療法則
	6	〃
	7	病因病機・臨床応用
	8	〃
	9	十二経絡の病症と証決定
	10	〃

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	特殊療法		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	鍼灸治療の神髄は、病の本態（証）を把握し自然治癒力を高めることによって必然的に治癒という結果をもたらすことにある。脈診・証・補瀉を中心とするこの治療法を習得実践し臨床に生かせる治療家を目標とする。	
授業計画		特殊療法（Ⅱ）
	1	経絡治療とは
	2	証決定（診断）
	3	〃
	4	治療法則（『難経』六十九難・七十五難）
	5	〃
	6	脉診の概要
	7	〃
	8	〃
	9	『難経』一難・二難・四難・五難・十五難・十八難
	10	〃
	11	〃
	12	脈診の仕方・実習
	13	〃
	14	補瀉の概要・『霊枢』九鍼十二原篇第一
	15	陰陽学説・五行学説・臨床応用
	16	〃
	17	〃
	18	四診法
	19	〃
	20	〃
	21	五臓の生理・病理と臨床応用
	22	〃
	23	病因病機・臨床応用
	24	〃
	25	〃
	26	十二経絡の病症
	27	奇経治療とその実際
	28	〃
	29	子午治療とその実際
	30	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	鍼灸総合療法		
授業方法	講　義		
単位数	１単位		
時間数	２０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	２　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	耳介療法の理論の理解と臨床での施術ができる。	
授業計画		鍼灸総合療法（Ⅱ）
	1	耳介療法の歴史と施術の基礎
	2	〃　〃
	3	内胚葉由来の施術ポイントと実践
	4	〃　〃
	5	中胚葉由来の施術ポイントと実践
	6	〃　〃
	7	外胚葉由来の施実ポイントと実践
	8	〃　〃
	9	NADA(依存症に対する施術)
	10	Battlefield Acupuncture（PTSDに対する施術）

成績評価	学修成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	医療経営学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	３０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験			

講義内容・目標	事業及び個人のお金に関する知識のうち何がポイントとなるかを明確にした上で、必要とされる知識をイメージしやすいように身近な話や時事的なトピックと結び付けながら、面白く且、楽しみながら身に付けていくことを目標とする。	
授業計画	1	総　論（申告・税金についての概要１回目）
	2	〃　（申告・税金についての概要２回目）
	3	〃　（申告・税金についての概要３回目）
	4	個人事業とサラリーマン（給与所得者）の違い　青色申告・白色申告とは何か
	5	専従者給与について
	6	個人事業と法人（会社）との違い
	7	開業資金借入について・住宅ローンについて
	8	公的保険制度について（社会保険と国保・国民年金）
	9	決算書の仕組み　仕訳の基礎知識　第１回目（簿記総論　現金主義）
	10	仕訳の基礎知識　第３回目（発生主義）
	11	仕訳の応用（減価償却について）
	12	決算書作成のポイント
	13	確定申告書作成のポイント
	14	復　習
	15	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	４０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	各関節の筋肉・動作、正常歩行・異常歩行について学ぶ。	
授業計画		人体の構造と機能（Ⅴ）
	1	てこ
	2	関節の運動
	3	姿勢とその異常
	4	運動路と感覚路（下行性伝導路）
	5	〃　（上行性伝導路）
	6	反射と随意運動（脊髄反射）
	7	〃　（連合反応と共同運動）
	8	脊柱・体幹の機能
	9	脊柱の動きと筋の作用
	10	胸郭の動きと呼吸筋の作用
	11	肩甲帯・肩の機能
	12	肩甲上腕リズム
	13	肘と前腕の機能
	14	回内・回外運動
	15	手と手指の機能
	16	骨盤の機能
	17	膝関節の機能
	18	足の機能
	19	正常歩行
	20	異常歩行

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進		
講義名	リハビリテーション医学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	４０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	リハビリテーションの総論・各論について学ぶ。	
授業計画	1	リハビリテーションの概要
	2	医学的リハビリテーションの概要
	3	障害の評価（機能障害）
	4	〃　（能力低下）
	5	医学的リハビリテーション（理学療法、作業療法）
	6	〃　（言語療法）
	7	脳卒中のリハビリテーション（麻痺と合併症）
	8	〃　（急性期、回復期リハビリテーション）
	9	脊髄損傷（高位診断）
	10	〃　（回復期リハビリテーション）
	11	切断のリハビリテーション
	12	脳性麻痺のリハビリテーション
	13	骨・関節疾患のリハビリテーション（五十肩）
	14	〃　〃　（腰痛）
	15	〃　〃　（変形性膝関節症）
	16	関節リウマチのリハビリテーション
	17	末梢神経障害のリハビリテーション
	18	パーキンソン病のリハビリテーション
	19	呼吸器疾患のリハビリテーション
	20	心疾患のリハビリテーション

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進		
講義名	臨床医学各論		
授業方法	講　義		
単位数	４単位		
時間数	８０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	各疾患の特徴・症状などについて理解できる。	
授業計画	1	消化器疾患
	2	〃
	3	呼吸器疾患
	4	〃
	5	循環器疾患
	6	〃
	7	血液疾患
	8	内分泌および代謝疾患
	9	〃
	10	アレルギーおよび膠原病
	11	感染症
	12	腎・尿路疾患
	13	〃
	14	神経内科および脳神経外科の主要症候
	15	脳血管障害
	16	〃
	17	〃
	18	感染症および炎症性疾患
	19	脳腫瘍
	20	神経系の変性疾患
	21	〃
	22	末梢神経疾患
	23	関節疾患
	24	筋疾患
	25	骨疾患
	26	形態異常
	27	頚腕症候群
	28	腰痛・坐骨神経症候群
	29	脊髄損傷
	30	スポーツ医学
	31	一般外科
	32	麻酔科
	33	眼科疾患
	34	耳鼻咽喉科疾患
	35	皮膚科疾患
	36	小児科疾患
	37	婦人科疾患
	38	歯科口腔疾患
	39	泌尿器科疾患
	40	精神科疾患　　【付】　検査値とその解釈

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講　義		
単位数	４単位		
時間数	８０時間		
学　科	東洋医療学科	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	臨床上遭遇しやすい症候・病証に対する現代医学と東洋医学を総合して、鍼灸治療を学習する。	
授業計画		臨床東洋医学（Ⅱ）
	1	肩こり　現代医学的な考え方
	2	〃　東洋医学的な考え方
	3	頚肩腕痛　現代医学的な考え方
	4	〃　東洋医学的な考え方
	5	肩関節痛　現代医学的な考え方
	6	〃　東洋医学的な考え方
	7	上肢痛　現代医学的な考え方
	8	〃　東洋医学的な考え方
	9	腰下肢痛　現代医学的な考え方
	10	〃　東洋医学的な考え方
	11	膝　痛　現代医学的な考え方
	12	〃　東洋医学的な考え方
	13	運動麻痺　現代医学的な考え方
	14	〃　東洋医学的な考え方
	15	高血圧　現代医学的な考え方
	16	〃　東洋医学的な考え方
	17	低血圧　現代医学的な考え方
	18	〃　東洋医学的な考え方
	19	食欲不振　現代医学的な考え方
	20	〃　東洋医学的な考え方
	21	肥　満　現代医学的な考え方
	22	〃　東洋医学的な考え方
	23	発　熱　現代医学的な考え方
	24	〃　東洋医学的な考え方
	25	のぼせと冷え　現代医学的な考え方
	26	〃　東洋医学的な考え方
	27	不　眠　現代医学的な考え方
	28	〃　東洋医学的な考え方
	29	疲労と倦怠　現代医学的な考え方
	30	〃　東洋医学的な考え方
	31	発　疹　現代医学的な考え方
	32	〃　東洋医学的な考え方
	33	小児の症状　現代医学的な考え方
	34	〃　東洋医学的な考え方
	35	スポーツ医学　スポーツ医学の概要
	36	〃　スポーツ外傷・障害
	37	〃　スポーツ外傷・障害
	38	老年医学　老年医学の特徴
	39	〃　老年者の疾患
	40	まとめ

成績評価	学修成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	臨床はり学，臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講　義		
単位数	２単位		
時間数	４０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	東洋医学的な病態把握とそれに対する適切な治療原則、治療方針、治療法を理解する。	
授業計画		臨床東洋医学（Ⅲ）
	1	弁証方法　（八綱弁証）
	2	〃　　〃
	3	〃　（気血津液弁証）
	4	〃　　〃
	5	〃　　〃
	6	弁証方法　（臓腑弁証）
	7	〃　　〃
	8	〃　　〃
	9	弁証方法　（経絡弁証　六淫弁証）
	10	〃　（六経弁証）
	11	〃　（衛気営血弁証　三焦弁証）
	12	標本と主客
	13	治　則　　（扶正去邪　治病求本・標本同治）
	14	〃　（陰陽の調整　正治と反治　天（時）・地・人）
	15	治　法　　（治法八法　生理物質・臓腑の病証に対する治法）
	16	〃　（臓腑の病証・外感病・症候・その他に対する治法）
	17	治療法　　（はり・きゅうの補瀉）
	18	治療法　　（選穴の原則　特定穴の応用）
	19	古代刺法
	20	弁証の進め方と証の決定

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	実　技		
単位数	４単位		
時間数	８０時間		
学　科	東洋医療学科	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	臨床上遭遇しやすい症候・病証に対する現代医学と東洋医学を総合して、鍼灸治療を学習する。	
授業計画		臨床東洋医学（Ⅳ）
	1	ガイダンス
	2	頭　痛　　現代医学的な考え方
	3	〃　　東洋医学的な考え方
	4	顔面痛　　現代医学的な考え方
	5	〃　　東洋医学的な考え方
	6	顔面麻痺　　現代医学的な考え方
	7	〃　　東洋医学的な考え方
	8	歯　痛　　現代医学的な考え方
	9	〃　　東洋医学的な考え方
	10	眼精疲労　　現代医学的な考え方
	11	〃　　東洋医学的な考え方
	12	鼻閉、鼻汁　　現代医学的な考え方
	13	〃　　東洋医学的な考え方
	14	脱　毛　　現代医学的な考え方
	15	〃　　東洋医学的な考え方
	16	めまい　　現代医学的な考え方
	17	〃　　東洋医学的な考え方
	18	耳鳴り、難聴　　現代医学的な考え方
	19	〃　　東洋医学的な考え方
	20	咳　嗽　　現代医学的な考え方
	21	〃　　東洋医学的な考え方
	22	喘　息　　現代医学的な考え方
	23	〃　　東洋医学的な考え方
	24	胸　痛　　現代医学的な考え方
	25	〃　　東洋医学的な考え方
	26	腹　痛　　現代医学的な考え方
	27	〃　　東洋医学的な考え方
	28	悪心と嘔吐　　現代医学的な考え方
	29	〃　　東洋医学的な考え方
	30	便　秘　　現代医学的な考え方
	31	〃　　東洋医学的な考え方
	32	下　痢　　現代医学的な考え方
	33	〃　　東洋医学的な考え方
	34	月経異常　　現代医学的な考え方
	35	〃　　東洋医学的な考え方
	36	排尿障害　　現代医学的な考え方
	37	〃　　東洋医学的な考え方
	38	インポテンツ　　現代医学的な考え方
	39	〃　　東洋医学的な考え方
	40	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	社会はり学，社会きゅう学		
講義名	社会はき学		
授業方法	講　義		
単位数	１単位		
時間数	２０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	BLS を実践できる。	
授業計画		社会はき学（Ⅱ）
	1	導　入
	2	鍼灸施術に関する医療過誤・副作用
	3	鍼灸院で起こりうる緊急事態
	4	救急・救助の現況
	5	止血法、気道異物除去、搬送法
	6	一次救命処置を行うまでの手順
	7	実技：体位変換、観察、止血法、気道異物除去、搬送法
	8	救急蘇生法
	9	〃
	10	実　技：AED を用いた一連の一次救命処置

成績評価	学修成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	実　習		
講義名	はりきゅう実技		
授業方法	実　技		
単位数	３単位		
時間数	９０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標		鍼灸治療が適応となる各疾患の鍼灸臨床技能を身につける。
授業計画		はりきゅう実技（Ⅳ）（Ⅴ）
	1	ガイダンス　鍼灸基礎技術の復習Ⅰ
	2	鍼灸基礎技術の復習
	3	〃
	4	〃
	5	低周波鍼通電器の使用方法の説明と実践
	6	足関節疾患に対する鍼灸治療実技
	7	足部疾患に対する鍼灸治療実技
	8	下腿部疾患に対する鍼灸実技
	9	膝関節疾患に対する鍼灸治療実技
	10	〃
	11	〃
	12	〃
	13	股関節疾患に対する鍼灸治療実技
	14	〃
	15	〃
	16	腰部疾患に対する鍼灸治療実技
	17	〃
	18	〃
	19	〃
	20	頚肩部疾患に対する鍼灸治療実技
	21	〃
	22	〃
	23	〃
	24	肩関節疾患に対する鍼灸治療実技
	25	〃
	26	〃
	27	〃
	28	肘関節疾患に対する鍼灸治療実技
	29	〃
	30	手関節疾患に対する鍼灸治療実技
	21	頭痛に対する鍼灸治療実技
	32	顎関節疾患に対する鍼灸治療実技
	33	内科系疾患に対する鍼灸治療実技
	34	〃
	35	〃
	36	〃
	37	〃
	38	〃
	39	〃
	40	〃
	41	トリガーポイント
	42	〃
	43	〃
	44	〃
	45	〃

成績評価	学修成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	臨床実習		
講義名	臨床実習		
授業方法	臨床実習		
単位数	４単位		
時間数	１８０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	患者とのコミュニケーションが図れること。四診が行えること。診察により病態を把握できること。治療方針を立て基本的な施術が行えること。カルテ記載ができること。受付業務ができることを目標とする。
授業計画	1）～ 90）までの実習内容 〔実習内容〕 ・受付業務および患者とのコミュニケーション ・患者との医療面接（問診）とコミュニケーション ・患者への診察（四診） ・病態の検討および把握（弁証） ・治療計画（治療方針・治療法）の検討および決定 ・施術 ・カルテの記載 以上の実習内容を教員の指導のもとに行う。受け付け業務は当番制で行う。 受付業務は当番制で行う。

成績評価	学修成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	東洋医学総合講義		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	過去に学んだ東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴学、はりきゅう理論を総合的に理解し、過去の国家試験問題を解けるようになる。	
授業計画	1	東洋医学の思想（陰陽・五行）
	2	東洋医学における生理と病理
	3	四診
	4	弁証論治
	5	東洋医学の疾病観
	6	治療論
	7	疾病治療総論
	8	疾病治療各論（循環器）
	9	〃　（呼吸器）
	10	〃　（消化器）
	11	〃　（泌尿器）
	12	〃　（生殖器）
	13	〃　（整形外科）
	14	〃　（徒手検査）
	15	〃　（スポーツ疾患）
	16	要　穴（五行穴・五兪穴）
	17	〃　（四総穴、八会穴、八脈交会穴、下合穴）
	18	要穴の取穴
	19	疾病治療の経穴
	20	奇　穴（特効穴）
	21	刺鍼の方法と術式
	22	灸の基本知識と灸術の種類
	23	鍼灸の臨床応用
	24	リスク管理
	25	鍼灸治効の基礎
	26	鍼灸療法の一般的治効理論
	27	関連学説
	28	神経生理
	29	まとめ復習
	30	〃

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	特殊療法		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	本科目の講義を通して様々な鍼灸療法を学び、鍼灸治療の引き出しを増やして、多くの臨床場面に対応できるようになる事と様々な刺鍼療法の体験から毫鍼の刺鍼技術の向上を図る。	
授業計画		特殊療法（Ⅲ）
	1	打管鍼法
	2	〃
	3	皮内鍼法
	4	〃
	5	小児鍼法
	6	小児の灸法
	7	スキン鍼法
	8	横刺鍼法：坂井流
	9	古代中国の刺法
	10	中国金代の刺法
	11	杉山流刺鍼手技法
	12	刺絡療法
	13	吸角療法
	14	〃
	15	挫刺鍼：簡易挫刺法
	16	澤田流太極療法
	17	灸頭鍼療法
	18	棒　灸
	19	押　灸
	20	箱　灸
	21	肢体運動刺鍼法
	22	体位鍼
	23	奇経療法
	24	〃
	25	異種金属療法
	26	イオンパンピング療法
	27	本田式下腿三頭筋テスト法
	28	人迎脈口診
	29	消炎鍼法
	30	赤羽氏知熱感度測定法

成績評価	学修成果評価
評価基準	６０点以上（１００点満点）

分　野	専門分野		
教育内容	臨床はり学，臨床きゅう学		
講義名	鍼灸総合療法		
授業方法	講　義		
単位数	３単位		
時間数	６０時間		
学　科	東洋医療鍼灸学科（昼間）	配当年次	３　年
必修・選択区分	必　修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標	（Ⅲ-1）主な臓腑の病証に対する鍼灸療法を学ぶ。臓腑の病証に対する治療方針および治療穴を決定し、治則にしたがって治療が行えることを目標とする。 （Ⅲ-2）ﾄﾘｶﾞｰﾎﾟｲﾝﾄ療法の基礎的技術を用いて、安全面に配慮した刺鍼・徒手ｱﾌﾟﾛｰﾁができる。			
授業計画		鍼灸総合療法（Ⅲ－１）		鍼灸総合療法（Ⅲ－２）
	1	肺・大腸の病証に対する鍼灸療法 肺気虚証、肺陰虚証	1	ﾄﾘｶﾞｰﾎﾟｲﾝﾄ論の概要
	2	肺・大腸の病証に対する鍼灸療法 風寒犯肺証、痰湿阻肺証、	2	ﾄﾘｶﾞｰﾎﾟｲﾝﾄｱﾌﾟﾛｰﾁのための触察法
	3	肺・大腸の病証に対する鍼灸療法 大腸湿熱証	3	腰痛罹患構造のﾏｰｷﾝｸﾞﾎﾟｲﾝﾄ
	4	心・小腸の病証に対する鍼灸療法 心気虚証、心陽虚証	4	体表投影図描画実習
	5	心・小腸の病証に対する鍼灸療法 心血虚証、心陰虚証	5	〃　〃
	6	心・小腸の病証に対する鍼灸療法 心火亢盛証、心血[illegible]阻証、小腸実熱証	6	徒手的ｱﾌﾟﾛｰﾁの基本
	7	脾・胃の病証に対する鍼灸療法 脾気虚証、脾陽虚証	7	腰痛に対するﾄﾘｶﾞｰﾎﾟｲﾝﾄｱﾌﾟﾛｰﾁ（徒手）：多裂筋 腸肋筋
	8	脾・胃の病証に対する鍼灸療法 寒湿困脾証、脾胃湿熱証	8	〃　〃　：腸肋筋
	9	脾・胃の病証に対する鍼灸療法 胃熱証、胃陰虚証	9	〃　〃　：腰方形筋
	10	肝・胆の病証に対する鍼灸療法 肝気鬱結証、肝火上炎証	10	〃　〃　：中殿筋
	11	肝・胆の病証に対する鍼灸療法 肝血虚証、肝陰虚証	11	〃　〃　：大腰筋 大殿筋
	12	肝・胆の病証に対する鍼灸療法 胆鬱痰擾証	12	腰痛に対するﾄﾘｶﾞｰﾎﾟｲﾝﾄｱﾌﾟﾛｰﾁ（鍼）
	13	腎・膀胱の病証に対する鍼灸療法 腎気不固証、腎不納気証	13	〃　〃
	14	腎・膀胱の病証に対する鍼灸療法 腎陽虚証	14	腰殿部のﾄﾘｶﾞｰﾎﾟｲﾝﾄｱﾌﾟﾛｰﾁ（徒手）まとめ
	15	腎・膀胱の病証に対する鍼灸療法 膀胱湿熱証	15	〃　〃　（鍼・徒手）まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	６０点以上（１００点満点）